

がんばれ！八小の絆 今こそ強く！

校長 松本 雅史

新しい年が始まりました。

新年明けましておめでとうございます。

お正月といえば、私にとって忘れることのできないエピソードがあります。

そのお話をする前に、この数を見てください。

「18000」

これは何を表していると思いますか。

ちょうど2年前、2024年1月1日午後4時10分に、石川県、能登半島を巨大地震が襲いました。あれからちょうど2年が経ちました。この数は、能登半島地震で今もなお避難所生活を余儀なくされている方々の人数です。

今から紹介するお話は、この地震が起きた1月1日の次の日、1月2日の出来事です。

この日、東京はじめ首都圏の4会場で、高校生によるサッカーの全国

大会の3回戦が行われました。震災が起きた能登半島は石川県です。石川県代表の星稜高校は、千葉県の市立船橋高校と対戦しました。

試合前、対戦相手の市立船橋か



ら、震災復興を祈るエールが送られました。応援席ではサッカーチーム員たちが「頑張れ石川」の横断幕を掲げ、声を合わせて星稜高校に応援のエールを送りました。

実は、前日の震災のため、石川県星稜高校は、応援団を送ることができませんでした。この事態を受け、星稜高校の卒業生たちが、SNSで応援を呼びかけました。

スタンドには、12月31日の2回戦すでに敗退していた神奈川県代表の日大藤沢高校や、この日の2試合目に挑む岡山県代表の岡山学芸館高校も駆け付け友情応援をしました。



星稜高校のチームカラーは黄色です。駆け付けた日大藤沢のサッカーチーム員たちは、地元茅ヶ崎市で使っている黄色いごみ袋で作った即席の応援服をユニフォームの上から着て応援しました。



対戦相手の市立船橋高校からも、同校野球部やバスケットボール部から350個の応援メガホンを星稜応援団に貸し出しました。



試合は、4-1で、市立船橋高校が勝ち、石川県の星稜高校は負

けました。しかし、試合の終わった後のスタンドには、「がんばれ！日本

の絆 今こそ強く！」



「最高の場所へ！俺たちは共に！」と書かれた大きな横断幕が掲げられました。

全国高校サッカー大会は、サッカーを志す高校生にとって、まさに夢の舞台です。この舞台に立つために、どれほど頑張ってきたことでしょうか。この雄姿を応援し支えてくれてきた家族や友人、地元の方々にどれほど見て欲しかったことでしょうか。その努力と思いが一番分かるのは、同じ舞台に立つ相手校だったのだと思います。

市立船橋高校の応援団長は、「チームを応援するのが第一、でも、同じサッカーを愛する者として何かできればと思って横断幕を掲げました。」と話しました。

この試合での星稜高校に対するあたたかい応援の姿は、どれほど石川県の方々を勇気づけたことでしょうか。

こういういざという時こそ「がんばれ！日本の絆 今こそ強く！」と、心を通わせ力を合わせよう、私たちは決して無関心ではない、忘れないという心をお互い強くもってすすんでいきたいと思います。

いよいよ、2026年が始まりました。

私たちは、これまで以上に、八小の絆、地域との絆をさらに強く、一人一人ができる事を精一杯やり、笑顔を広げていきたいと思います。馬年は、飛躍の年です。元気に仲良くすすみましょう。